

菊陽町精神障がいにも対応した 地域包括ケアシステムの構築

令和7年12月12日（金）

九州・沖縄地域共生社会推進フォーラム

菊陽町健康福祉部福祉課地域福祉係 尾形 昌彦

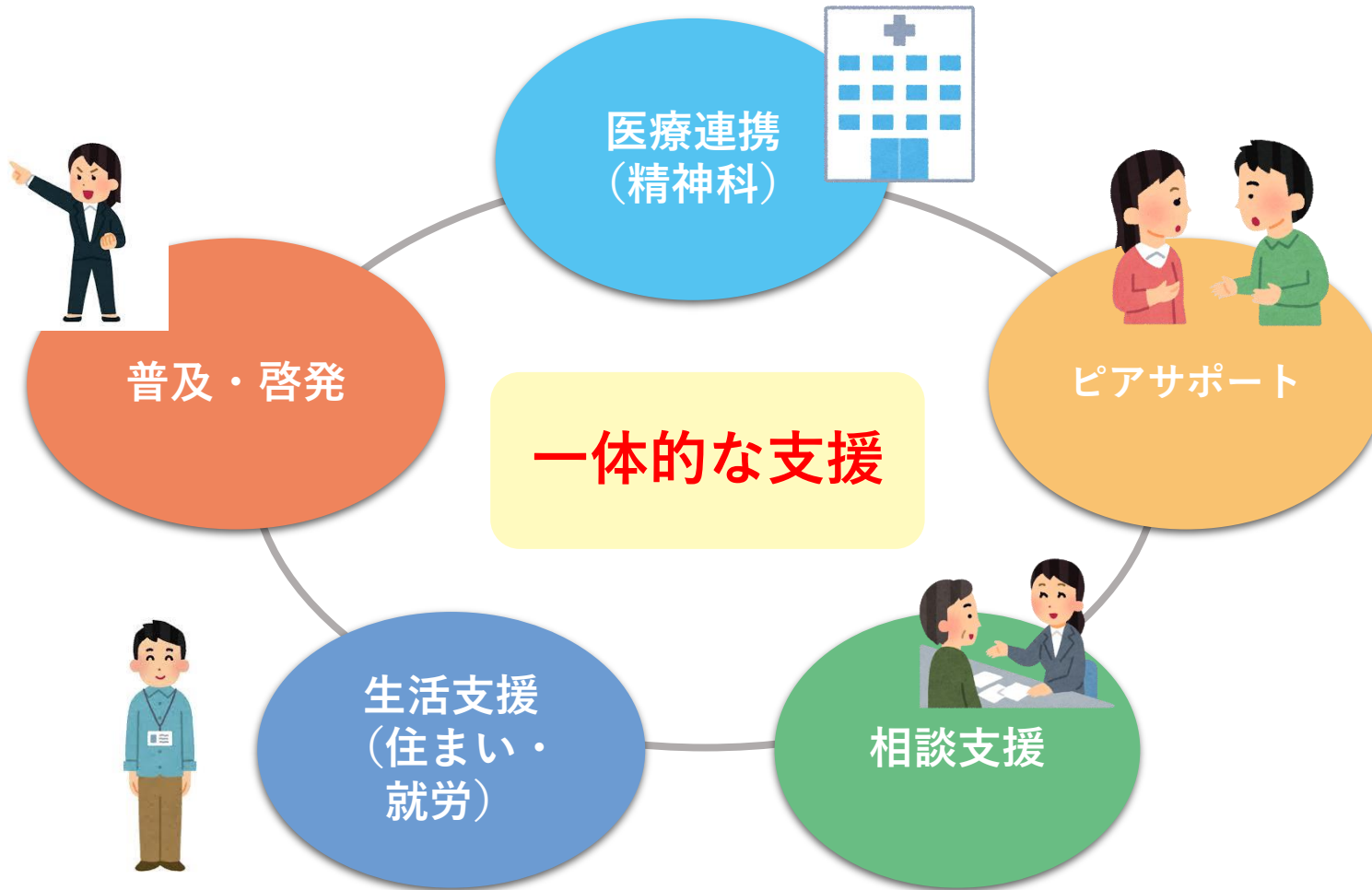
1. 菊陽町の概要

- 総人口 44,010人(R7.11.1時点)
- 位 置 熊本市のベッドタウン、阿蘇の玄関口
- 地域特性 都市近郊の住宅地＋緑地。大企業の進出を受けて人口が増加しており、外国人流入も増えている。
- 福祉課題
 - ・地域のつながりの希薄化
 - ・生活保護や生活困窮相談の増加
 - ・多様な住民ニーズ、相談の複雑化
 - ・孤独・孤立、8050的課題
 - ・民生委員等ボランティアの高齢化、なり手不足



2. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムとは

精神障がいのある人が、地域で自分らしく安心して暮らすための、医療・相談・生活支援・地域のつながりを一体的に整える仕組み。



【なぜ菊陽町で必要か】

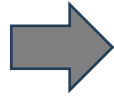
- ・人口増・多様化で課題が複合化
- ・地域のつながりの弱まり
- ・熊本地震を経験し「行政だけでは限界」が明確に



当事者参加で
“共に支える仕組み”が必要

3. 取組開始の背景

熊本地震



精神的不安定



限界意識



協働スタート



メンタルヘルス
の課題を抱える
町民が増加

支援に苦慮し、
「行政だけでは支
えきれない」現実
を痛感。

- いかなる時も安心して暮らせる地域づくりが必要
- 支援者の独りよがりにならないよう、当事者参加を必須化
- 関係機関と行政が“面で支える”協議体を創設



精神障がいにも対応した
包括ケアの土台づくりが
始動

4. 協議体の体制

多機関 × 当事者参加の協議体を運営（R1～）



当事者



就労支援事業者



委託相談支援
事業者



社会福祉協議会



医療機関



その他必要な関係機関

- 当事者が必ず参画
- 頻度：2か月に1回、約90分



支援者中心から
“当事者と共に創る”
組織へ進化

5. 協議内容

相談
(ワンストップ化)

家族支援

住まいの確保

普及啓発

ピアサポート活用

ネットワーク構築

社会資源の開発・
改善

社会参加促進

課題発見 → 施策化 → 実施までを一体で行える協議体に成長

6. 協議の場で大切にしていること

- ・単なる協議に留まらず、まずは何か形に残そう！

- ・行政主導ではなく行政と民間が協働で実施する。

- ・顔の見える関係作り。

- ・にもケア会議の当事者参加。当事者の声が第一。

- ・まず町で協議し、町で対応できない課題を自立支援協議会に上げる。

(自立支援協議会は圏域規模で範囲が広く、各市町の報告に留まり協議が難しい。地域により実情が異なり課題やニーズがまとまりにくいいため。)

7. 取組から生まれた成果

協議の議論が“実際の事業”として形になった

R1

●こころの相談事業（ワンストップ相談）

精神保健・生活困窮・福祉相談を一本化

※現在はそれぞれの部門で専門相談を受け付けているため、今後の整理が課題。

R4

●一時生活支援・コーディネート事業

グループホームの一室を確保

体験訓練・シェルターとして活用可能

R6

●精神保健福祉のつどい（ハッピーハートフェスティバル）

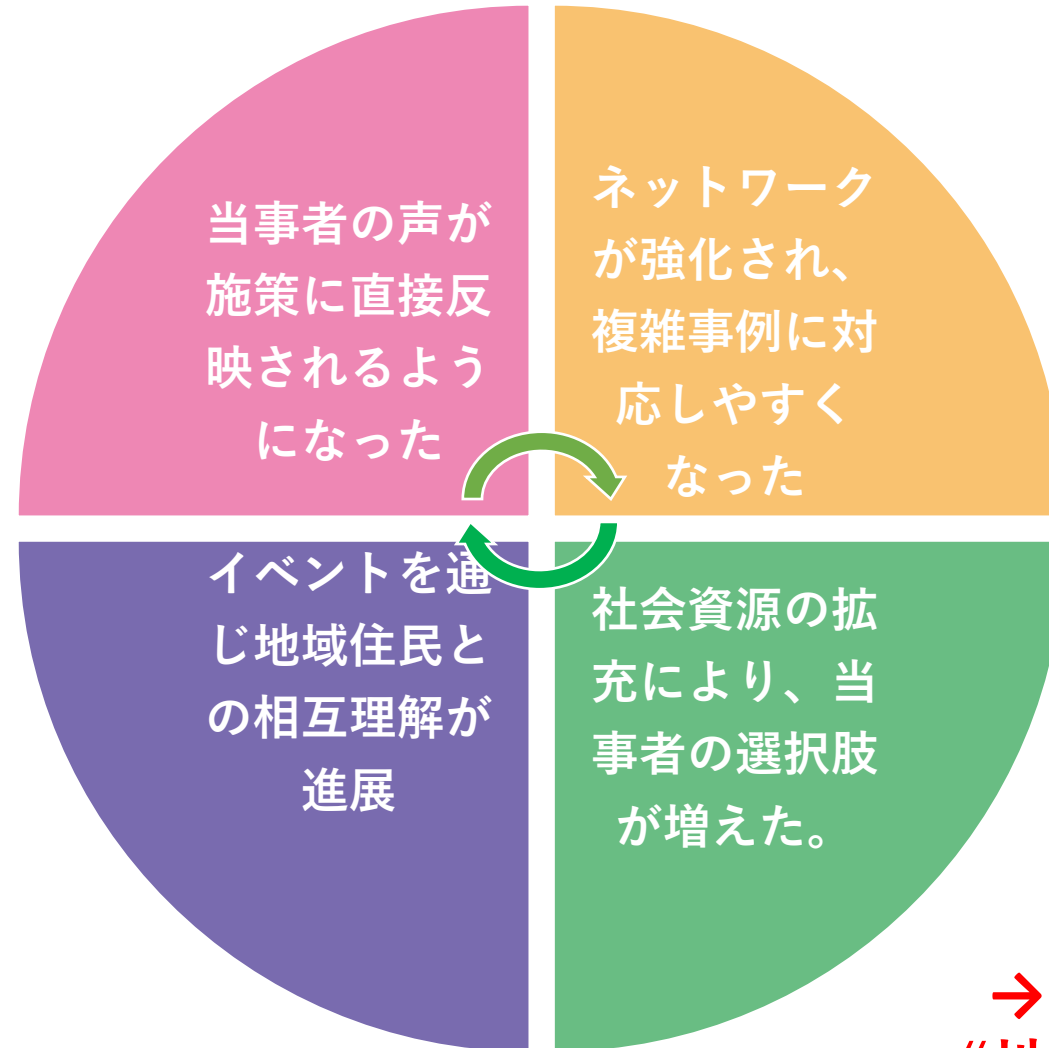
約300名参加

当事者発表・作品展示・物品販売

→ 地域住民との交流・理解が大きく前進

8. 見えてきた効果

“つながる支援”が
現場に浸透し始めた



→ “支援する町”から、
“地域で支える町”へ転換

9. 今後の展開

R8年2月
ハッピーハートワーク
ショップ
～おしゃべりカフェ～



当事者＋支援関係団体＋地域
住民によるワークショップを
開催予定

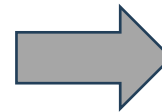
地域課題
の抽出

既存資源
の棚卸し

新しい
社会資源
の開発

“精神障がいにも対応した包括ケア”を、
重層的支援体制へつなぎ、町全体の仕組みへ進化さ
せる

“精神障がい者”が
暮らしやすい町



“全ての人”が
暮らしやすい町

10. まとめ

包括的支援体制の構築は、行政主導の整備から、地域主体の協働へと転換が求められている。

精神障がいを含む誰もが地域で当たり前で暮らせる仕組みづくりを継続（精神障がい者が暮らしやすい町は、全ての人のためにも暮らしやすい町）。

本町の実践は、分野横断型の支援を「協議の場・関係性・合意形成」によって具体化する試みである。

制度面の整備に加え、当事者・地域・支援者が対話しながら、それぞれが役割を担うことで、地域力を向上（「支援する/される」の枠を超えた協働の場づくり）。

一つ一つの取組は小さなものだが、小さな成功例を積み上げ、共有することで地域全体の文化として育てていく。

持続可能な地域包括ケアを、精神障がい当事者を出発点とし、
制度 × **実践** × **関係性** の三層構造で成立させる